



菅波 茂

「国際協力」国内協力十国外協力」。これはAMDAの方程式である。国際協力はともすれば、華々しく見える海外の活動に幻惑されがちだが、目に見える国外協力は、目に見えない多くの国内協力があつてこそ初めて可能になる。

AMDAの災害救援活動は、宗教者でつくる岡山市のネットワーク組織「人道援助宗教NGO委員会」に幅広く協力を受けている。

このネットワークは、1998年に発生した中国・雲南省の大地震で、県内の宗教者が宗教、宗派の枠を超えて救援活動を行ったことが

2000、1、27

## 宗教者ネットワーク

契機で生まれた。人道援助のために宗教者が集い、アジアの他の宗教者ともネットワークを持ち、国内外でいくつもの「宗教者による人道援助社会貢献」を実施しているグループである。

初代委員長は真言宗の宮本光研氏、2代目委員長は金光教の西村美智雄氏。メンバーは天台宗、真言宗、キリスト教、立正佼成会、創価学会、天理教、最上稲荷教、黒住教など多方面にわたる。

AMDAも国連NGOとして世界25カ国に支部がある。その特徴は多様性。すなわち多民族、多言語、多文化、多宗教である。世界

の宗教といえばイスラム教、キリスト教、ヒンズー教、仏教、神道などがある。私はこのネットワークに、過去4年間の活動実績に基づいて、さらなる活動推進のための「国際宗教文化センター」構想の実現に向け、協力をお願いできればと勝手に切望している。

その構想の内容は①世界の宗教に関する図書、文献の収集②世界の宗教者による社会貢献活動の紹介③世界の宗教行事の紹介④宗教理解のための教育プログラムの実施⑤宗教研究プログラムの実施⑥人道援助宗教者ネットワークの構築と拡充——というものだ。

「宗教なくして国際社会は理解できない」。これはAMDAの結論の一つである。(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)